

# 酔いどれ 取材メモ

オレは酒匂徳利。定年間際の新聞記者だ。無類の酒好きから「徳利の徳さん」と呼ばれることが多い。出世とは無縁な自分の足を信じる古いタイプのブンヤだが、なぜか愛する酒に関する事件情報は集まってくる。

毎度のことでもはや説明も必要ならう。オレも何度も同じことを言いたくない。お読みいただければわかるが、今回も懲りずに酒に飲まれて世間を騒がせた不逞な輩が続出している。あきれて開いた口が塞がらないが、それでも酒事件をレポートしていく。それが愛する酒への恩返しだと信じているから……。

2006年に幼い兄弟3人が死亡した「福岡海の中道飲酒運転事故」をまさか忘れてはいまい。酒に携わっている業界関係者は常にこの事故を頭の片隅に置きつつ仕事をしていると思いたい。この事故を機に、酒酔い運転に対する社会の眼は厳しくなり、翌07年、道交法が改正された。飲酒運転とひき逃げの罰則が強化されたのだ。

だが(怒)、それにもかかわらずだ。相変わらず飲酒運転の報告は多いし、さらに、暴力にエロ……。いい大人が懲りずに繰り返すトホホな事件は後を絶たない。

今年中盤、印象に残ったのはお笑い芸人の運転トラブルだった。女子中高生に大人気のノンスタイル井上がタクシーと接触事故を起こし逃走。また、インパルス堤下は、服薬による朦朧状態で運転しバトカーに止められた。両者はどちらも飲酒とは関係なかったのがせめてもの救いだ。テレビで活躍する人気者であり、褒められた行為ではない。そんな折、ついにお笑い芸人のガリガリクソンが飲酒運転で逮捕された。一緒に酒を飲んだ女性タレントは6時間ほど大阪市内のバーで飲んだと明かし、「あれだけ酔ってよく運転できた」としれっと語ったが、そう思っているなぜ運転させたのか。ガリクソン自身もハイボール数杯までは記憶にあるように、「状況的に判断して、私が運転したとしか考えられない」と無責任に言うが笑い話にもならない。

飲酒運転以外の事件も併せて、春以降初秋までの酒事件を見てみよう。

京都の34歳の医師が飲食店の女性アルバイト店員の顔を殴って首を絞め、傷害の疑いで現行犯逮捕されたのは5月半ばのことだった。酒に酔って服を脱ごうとした友人が店員に咎められたことに腹を立ててのことだが、冷静な判断力が求められる医師にあるまじき行為。刑事罰と同時に医師免許も剥奪すべきだ。

福岡県の42歳の会社員は飲酒後にタクシー

で帰宅、そのまま眠ればいいものの、あろうことか乗用車で外出、とどのつまり、「自分が今どこにいるかわからない」と自ら110番通報した。

京王線柴崎駅では、ホームでいざこざを起した若者と悶着を起した43歳の土木作業員が酔いにまかせ「上から物言ってんじゃねえ」と若者をホームに突き落とし、敢え無く御用。

被害にあった酔客もいる。西東京市の酩酊状態の46歳会社員は地下鉄車内で爆睡。当然のごとくスリがすり寄る。現行犯で捕まったこの窃盗犯は13年から同じ手口で荒稼ぎしていたという。

奄美大島のある民家から出火したのは夜11時近くだった。焼け跡からはこの家に住む96歳の男性が遺体で発見された。犯人は56歳次男。動機はとうあれ、酔った勢いで父親を殴り、火を放つなど言語道断。

夫婦ケンカの仲裁に入った警官の足を蹴り、公務執行妨害でバクられたのは高知県の33歳会社員。酒に酔ってエスカレートしたらしいが、昔から夫婦ケンカは犬も食わないのだからほどほどに。

掛保乃糸の素麺で有名な兵庫県たつの市では49歳の会社員がJ.Rの駅ホームで酔っ払って下半身を露出し御用。そうめんほどのイチモツだったかどうか定かではないが、暑さ故のチン行為か。

暑さと酒は若者も狂わせる。埼玉県所沢市の17歳の建設作業員は酒に酔ってコンビニの窓ガラスを持っていった金属製スコップで叩き割り、商品の火花に着火した。「仕事や人間関係がうまくいかず、イライラした」と言う。スコップ

を振ったことで、人生も棒に振ってしまった。

和歌山県では5歳の孫が犠牲となった。52歳の会社員は酒に酔って、同居する孫の男児の太ももにアイロンを押し当てやけどを負わせた。「ケガをさせるつもりはなかった」などとよく言えたものだ。

紙幅の都合で、今回はこの程度で納めるが、呆れるほど酒事件は数多い。

富山県では県警巡査長が酒気帯び運転で書類送検された。事件を深刻に受け止めた富山県警富山中央署は、直ちに「飲酒3原則4注意」の通達を出し綱紀粛正に努めたという。

「飲酒3原則」とは「飲酒場所への車両の持ち込みの禁止」「3次会の禁止」「午後11時以降の飲酒の禁止」を求め、「4注意」は、「自分の適量限度をわきまえること」「職責を自覚した言動」「飲み過ぎた者へのフォロー」「翌朝の二日酔い運転への注意」を求めている。

なんか生ぬるくないか。警察の身内への対応がこの程度では、いつまでも酒事件など減るはずもない。



イラスト：菊峰志麻